

# フォレストニュース

植林が地球を救う

令和4年(2022)10月10日

No. 178

発行 高津啓洋

## 台風にも負けずに植樹

東京八王子市にて、9月25日(日)13:00~15:00、「高尾小仏植樹祭2022」が開催されました。台風15号の接近の影響により、前日急きょ開催時間が午後に変更の中、緑の会からも8名が参加。参加総数は192名、植樹本数は常緑、落葉各10種類アカガシ、ヤマザクラ、タブノキなど郷土樹種の広葉樹、2181本、面積700㎡の傾斜面に植樹しました。

台風15号接近の影響の心配の中、晴天に恵まれた秋風の中、参加者は事前に宮脇方式によるポット苗

の植樹方法の説明を受け、「タブノキ!」と苗木の名前を三度復唱し、気持ちを一つにし、出発しました。

参加者の感想:

①今回は最高年齢96歳のお爺さんが参加され、こどもたち、家族連れ、参加者全員の活力が沸く一日となりました。楽しい植樹体験に参加する事が出来、2時間あっという間に過ぎました。また次の植樹体験が楽しみです。

②指導する方も、宮脇先生の方式に従って指導をされ、これが、高津先生がいつも言われている、宮脇方式の植樹なのかと実体験することができました。

③1本1本丁寧に気持ちを込めて植えられたこ



急斜面にも負けずに希望と元気の出る植樹会です

とが良かったです。など参加者全員喜んで復活しました。

④沢山の方々が参加されていて、小さな子供と一緒に家族連れもいて、地域に蜜着する運動として全国に広がることを期待しています。など参加者全員喜んでいました。(溝垣記)



高尾でうれしい汗を流しました

## 船橋森づくりセミナー

「地球の緑を守る会」船橋支部は9月17日、船橋の勤労市民センターにて「森づくりセミナー」が開催され、大人5人、大学生4人、高校生2人、中学生7人が参加する中、高津理事長の「船橋市の緑を豊かにする植樹活動とパンタナールの環境保全」の講座やポット苗

を植え替える体験、南米で共に植樹活動を展開している一般社団法人南北米福地開発協会

の藤生青年局長による「南米でも植樹」報告もありました。国内でもこのような植樹活動を通して、郷土を愛し、地域に貢献するために、災害から人の命を守る「防災、環境保全、癒しの森」を整備していく植樹文化をねづかせることができればと感じました。

## 過酷な暴風雨のレダ



中央が太く酔っぱらいの木と呼ばれています

酔っぱらって倒れたものではありません

9月25日パラグアイのチャコ地方に暴風が吹き、レダで春には綺麗な花を咲かせる大きなパラボラーチョの木が、残念ながら倒れてしまいました。

